

平成27年度 生活・自立支援キャンプ事業

子ども生き生き体験学習

- 1 趣 旨 児童養護施設との連携を深め，様々な体験活動をとおして，子供たちの豊かな情操を養い，自立を支援する。
- 2 期 日 平成27年9月12日（火）・13日（水） 2日間（各日帰り）
- 3 対象者 児童養護施設「大隅学舎」に入所している子供
- 4 募集定員 無し
- 5 参加者 22人（小学生：18人 大隅学舎指導者：4人）
- 6 指導者 国立大隅青少年自然の家職員

7 日程と主な活動

(1日目) 9 月 12 日 (火)	11:30	12:30	14:00	15:30	20:00	20:30
	出会いのつどい オリエンテーション 昼食	《自然体験》 沢遊び	移 動	《生活体験》 夕食作り 夕 食 (持ち寄り パーティ)	ま と め	

(2日目) 9 月 13 日 (水)	7:30	8:00	9:00	10:30	12:00	13:00	13:40
	朝 食 (弁当)	移 動 準 備	《自然体験》 スラックライン に挑戦！	《生活体験》 そうめん流し コースづくり	昼 食	ふりかえり 別れのつどい	退 所

8 事業運営について

- (1) 児童養護施設で生活する子供たちを対象に，大隅半島の山や川での自然体験活動を行うにあたり，施設の要望もあり安全に最大限配慮するよう，フィールドの選定や安全装備を準備した。
- (2) 小学生を対象に，可能な限り自分たちの手で挑戦し，達成感が得られるような難度設定となるよう配慮した。特に夕食作りでは，趣向を凝らしたメニュー構成により，子供たちの意欲を喚起するよう留意した。

9 事業の実際

- (1) 沢遊びでは，冷たい水温をものともせず，ずぶぬれになりながら，生き物を観察したりチューブ乗りをしたりして楽しんだ。



- (2) 夕食作り際には、グループごとに役割分担をしながら、焼きカレー、温野菜サラダ、チキングリル、焼きりんごといったメニューを作り、持ち寄りパーティーを行った
- (3) スラックライン体験では、バランスをとるのに苦労しながらも、互いに励まし合いながら何回も挑戦して、できるようになったとき、大きな達成感を得ていた。
- (4) そうめん流し体験では、みんなで工夫・試行錯誤しながら、そうめん流しのコースを作った。そうめんが上から下まで流れ着いたときには、大きな歓声があがり、食べることを忘れて友達と喜び合う姿が見られた。
- (5) 振り返り際には、この2日間で楽しかったことや感じたことなどを思い出として、発表し合った。



10 成 果

普段作らないようなメニューを協力して作り、みんなでおいしく食べることができた、自分たちが作った料理を誇らしく紹介する姿が見られ、「料理を作るのが楽しい!」と話してくれる子もいた。

施設の都合で、急遽宿泊することができなくなってしまった。落胆する子もいたが、年上の子が励ます姿も見られ、「次はテントで寝てみたい」という前向きな会話に変わっていった。

体調がすぐれず、夕食作りの最中に施設に戻った女の子がいたが、グループの残った子が「ちゃんも作ったんだから食べさせてあげたいので、お皿を貸して。」と申し出てきた。すべてのメニューを持ち帰って食べてもらったとのこと。次の日は、体調も良くなり前日以上に仲良く活動できていた。

施設職員はスラックラインに非常に高い興味を示していた。聞けば「狭い(施設の)敷地で設置でき、また発達障害の子も揺られるだけで各種能力の向上が見込める。」とのことであった。想定してない効果が期待できる点で新たな発見であった。

子供からは意外にも、「自由時間でやった鬼ごっこが面白かった。」といった声が寄せられた。芝生の上で思いっきり体を動かしたことで、本気で追いかけてくる大人(自然の家スタッフ)と遊べたことが印象的だったようである。指導者として安全管理等に気を配ると同時に、子供と同じ目線で「本気で」活動することの大切さを改めて認識した。

